○府令

朝鮮總督府令第八十七號

土地收用令ヲ明治四十四年七月十四日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

明治四十四年七月十四日　朝鮮總督　伯爵寺內正毅

一　京畿道京城府　楊州郡

一　慶尙北道大邱府

一　全羅北道全州郡　任實郡　南原郡

朝鮮總督府令第八十八號

朝鮮ノ沿岸及內河ヲ航行スル支那形日本船舶ノ標示ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十四年七月二十日　朝鮮總督　伯爵寺內正毅

第一條　朝鮮ノ沿岸及內河ヲ航行スル支那形日本船舶ハ左ノ標示ヲ爲スヘシ

一　船體ノ外部周圍ニ於テ上緣ニ沿ヒ幅六吋ノ白線一條ヲ畫スルコト但シ總噸數五噸未滿又ハ積石數五十石未滿ノモノニ在リテハ白線ノ幅ヲ三吋迄ニ減スルコトヲ得

二　檣ヲ有スルモノニ在リテハ前號ノ外檣ノ頂部ヨリ下方六呎間ノ周圍ヲ白色ニ塗ルコト

第二條　前條ノ標示ハ明瞭ニシテ久ニ耐ユルノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三條　第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府令第十四號

關東州船舶特種檢查規則左ノ通定ム

明治四十四年七月十五日　關東都督　子爵大島義昌

關東州船舶特種檢查規則

第一條　日本船舶又ハ船舶檢查法第十七條第一號ニ揭ツル船舶ニシテ關東州ニ出入スルモノハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶所有者、管理人、借入人又ハ船長ノ申請ニ因リ關東都督府海務局ニ於テ檢查ヲ執行ス

前項ノ檢查ニ關シテハ船舶檢查法及附屬命令ノ規定ニ依ル但シ船舶檢查法第十條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ法令中遞信大臣ノ職務ハ關東都督、管海官廳ノ職務ハ關東都督府海務局之ヲ行フ

第二條　海務局ニ於テ申請人ニ交付スヘキ證書ノ種類左ノ如シ

一　甲種船舶檢查證書

二　漁船檢查證書

三　假船舶檢查證書

四　遠航證書

五　回航認可證書

六　臨時旅客定員證書

前項各證書ノ書式ハ別記ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

第一號書式（竪九寸橫一尺三寸）

第　號

甲種船舶檢查證書

船番號	信號符字	船名	船籍港	總噸數又ハ容積	航路限定	航行期間	旅客定員 一等	旅客定員 二等	旅客定員 三等	乘組員
					有者 所 汽機 種類 汽罐 制限 端艇					船長

右檢查ヲ遂ケ關東州船舶特種檢查規則第二條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

明治　年　月　日

關東都督府海務局　印

制印

本文
8427
第

第二號書式（竪九寸横一尺三寸）

第　號

本船番號	信號符字
船名	船籍港
航路限定	所有者
航行期間	汽機種類
船長	汽罐種類
船定員	汽罐製造
業務種類	汽罐製造

右檢査ヲ遂ケ關東州船舶特種檢査規則第二條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

明治　年　月　日

關東都督府海務局　印

第三號書式（竪九寸横一尺三寸）

假船舶檢査證書

本船番號	信號符字
船名	船籍港
航路定限	所有者
航行期間	汽機種類
船長	汽罐製造
船定員	汽罐製造
旅客定員	船長

右檢査ヲ遂ケ關東州船舶特種檢査規則第二條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

明治　年　月　日

檢査官吏　官氏名　印

（檢査官吏二名以上ナルトキハ連署スルモノトス）

第四號書式（竪九寸三分横六寸六分）

適航證書

船舶所有者住所（所在地）

氏名（名稱）

右所有ノ汽（帆）船　舟　關東州船舶特種檢査規則第二條ニ依リ（航路定限旅客ノ搭載ヲ許シタルトキハ旅客ノ等級定員ヲ記入ス）航行ニ適スルモノト認メ此ノ證書ヲ交付ス

但シ此ノ證書ハ明治　年　月　日限リ無效トス

明治　年　月　日

關東都督府海務局　印

第五號書式（竪九寸三分横六寸六分）

回航認可證書

船舶所有者住所（所在地）

氏名（名稱）

右所有ノ汽（帆）船　舟　關東州船舶特種檢査規則第二條ニ依リ（旅客其他ノ搭載ヲ許シタルトキハ之ヲ禁シタルトキハ其ノ旨ヲ記入ス）航行スルコトヲ認可シ此ノ證書ヲ交付ス

但シ此ノ證書ハ明治　年　月　日限リ無效トス

明治　年　月　日

關東都督府海務局　印

第六號書式（竪九寸横一尺一寸）

臨時旅客定員證書

第　號

船名			
所有者	航路	證書有效期間	
旅客定員	內譯		
總員			

右檢査ヲ遂ケ關東州船舶特種檢査規則第二條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

明治　年　月　日

關東都督府海務局　印

關東州船舶檢査規則左ノ通定ム

明治四十四年七月十五日　關東都督　子爵大島義昌

第一條　左ニ掲クル船舶ハ本令ニ依リ檢査ヲ受クヘシ

一　關東州ノ沿岸若ハ港灣內ノミヲ航行スル日本船舶竝關東州ニ住所若ハ主タル事務所ヲ有スル者ノ所有スル船舶

二　關東州ヲ起點トシテ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ニ航行スル日本船舶竝關東州ニ住所若ハ主タル事務所ヲ有スル者ノ所有スル船舶

三　船舶法第一條ニ掲クル者又ハ關東州ニ住所若ハ主タル事務所ヲ有スル者ニ於テ借入レ關東州ヲ起點トシテ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ニ航行スル外國船舶

四　關東州ノ沿岸又ハ港灣內ノミヲ航行スル外國船舶

五　前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外關東州各港ニ於テ旅客ヲ搭載スル船舶ニシテ日本船舶又ハ船舶檢査法第十七條第一號ノ船舶ニ該當セサルモノ

前項第二號ニ掲クル船舶ノ檢査ハ船舶檢査法及附屬命令ノ規定ニ準シ之ヲ施行ス但シ平水航路又ハ沿岸航路ニ從事スル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　本令ニ於テ船舶ト稱スルハ汽船及帆船ヲ謂ヒ汽船ト稱スルハ蒸汽ヲ用ヒルトキト雖トモ拘ラス總テ推進機關ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スルモノヲ謂フ但シ主トシテ帆ヲ以テ運航スル船舶ハ推進機關ヲ有スルモノト雖之ヲ帆船ト看做ス

浚渫船、泥受船、起重機船ハ推進機關ヲ有スルトキハ之ヲ汽船ト看做ス

第三條　船舶ノ檢査ハ船舶ヲ初メテ航行ノ用ニ供セムトスルトキ、航行期間滿了ノトキ及航行期間內特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

第四條　船舶檢査ノ場所ハ大連旅順、老虎灘及柳樹屯トス

第三條　船舶ノ檢査ハ船舶ヲ初メテ航行ノ用ニ供セムトスルトキ、航行期間前項ノ場所以外ニ於テ檢査ヲ受ケムトスル者ハ海務局ニ申請ヲ爲スヘシ

第五條　船舶ノ檢査ヲ受ケムトスルトキハ其ノ所有者、管理人、借入人又ハ船長ヨリ第一號書式ノ申請書ヲ海務局ニ提出スヘシ

海務局ニ於テハ檢査官吏ヲシテ船舶ヲ檢査セシメ航行ニ適合スルモノト認メタルトキハ航路定限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ第二號書式ノ船舶檢査證書ヲ申請人ニ交付スヘシ

第六條　檢査ヲ受ケタル船舶ノ所有者、管理人、借入人又ハ船長ニ於テ船舶檢査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ檢査官吏ハ之ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三號書式ノ假證書ヲ交付スヘシ

第七條　船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在リテハ三箇月以上一箇年以內帆船ニ在リテハ六箇月以上三箇年以內トシ假證書ノ有效期間ハ本證書ト交換シ得ヘキ期間ヲ參酌シ三箇月以內ニ於テ第二十九條ニ依ル檢査期限ヲ超エサル程度ニ於テ檢査官吏之ヲ定ム

第八條　檢査ノ種類ヲ分チテ特別檢査、定期檢査及臨時檢査トス

特別檢査ハ船舶所有者、管理人、借入人又ハ船長ノ申請ニ因リ船舶檢査法附屬命令ノ規定ニ準シ之ヲ行フ

定期檢査ハ船舶ノ航行期間ヲ定メムトスルトキ之ヲ行フ但シ航行期間內ト雖所有者、管理人、借入人又ハ船長ノ申請アリタルトキハ海務局ニ於テ相當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ之ヲ行フコトヲ得

船舶檢査法ニ依リ檢査證書ヲ受有シ其ノ航行期間內ニ在ルモノハ其ノ期間終了シタルトキ定期檢査ヲ行フ

臨時檢査ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ行フ

一　檢査官吏ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

二　第二十條第二十二條第二十五條第二十六條第四項及第二十七條ノ申請又ハ第二十八條ノ屆出アリタル場合ニ於テ海務局カ檢査ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ

第九條　航路定限ハ船體、汽機、汽罐ノ堅脆大小及航路ノ難易ヲ參酌シテ之ヲ定ム但シ季節ニ因リテ危險ナリト認ムルトキハ期間ヲ附シテ航路定限ヲ制限スルコトヲ得

第十條　航路ヲ分チテ左ノ四種トス

一　遠洋航路

二　近海航路

三　沿海航路

四　平水航路

第十一條　遠洋航路トハ內外國各地ニ通スル航路ヲ謂フ

第十二條　近海航路トハ東經百十三度ヨリ同百七十度及北緯二十一度ヨリ同六十三度ニ至ル線內ノ航路ヲ謂フ

第十三條　沿海航路トハ北緯三十六度以北ノ黃海及渤海內ノ航路ヲ謂フ

第十四條　平水航路トハ港灣內及左ニ揭クル各區內ノ航路ヲ謂フ

一　蔣龍山灣ヨリ小龍山島（一名鱒島）及海猫島ヲ經テ旅順港ニ至ル線內

二　旅順港ヨリ南北三山島ノ南東端ヲ經テ大連灣ニ至ル線內

三　大連灣ヨリ南、北二山島及光祿島ノ南東端ヲ經テ貔子窩ニ至ル線內

四　貔子窩ヨリ光祿島ノ西南端、外長山列島ノ南端海洋島ノ南東端、大王家屯島ノ東端及石城島ノ東北端ヲ經テ花園口ニ至ル線內

第十五條　旅客定員ハ航路ノ遠近、客室ノ等級及積量ヲ參酌シ附錄第一號表ノ割合ニ依リ各室每ニ算出シテ之ヲ定ム

第十六條　汽壓制限ハ汽機、汽罐ノ構造竝材料ノ良否ニ依リ各部ノ强弱ヲ算定シ之ヲ定ム

許可 8427

第十七條　檢査ヲ受ケムトスル船舶ハ檢査ニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ但シ其ノ方法及程度ニ關シテハ檢査官吏之ヲ指定ス

第十八條　檢査官吏船舶ニ臨檢シタルトキハ船長又ハ機關長之ニ立會ヒ船舶國籍證書、船鑑札、海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿、海技免狀及船舶檢査證書等檢査ニ必要ナル書類ヲ其ノ檢閱ニ供スヘシ

船長又ハ機關長ハ檢査官吏ノ要求ニ應シ必要ナル幫助ヲ爲シ又ハ訊問ニ對シ陳述スヘシ

第十九條　檢査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢シ若ハ特ニ檢査ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第二十條　左ニ揭ケル場合ニ於テハ海務局ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ船舶檢査證書又ハ假證書ニ記載スル航路定限又ハ航行期間ヲ超エテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一　讓渡又ハ貸付ノ目的ヲ以テ船舶ヲ關東州外ノ港灣マテ回航セシムルトキ

二　關東州外ノ沿岸又ハ其ノ湖川、港內ニ使用スル目的ヲ以テ船舶ヲ其ノ目的地マテ回航セシムルトキ

三　關東州外ニ船籍ヲ變更スル爲船舶ヲ目的地マテ回航セシムルトキ

四　船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ヲ修繕スル爲工場所在地マテ回航セシムルトキ

五　航路定限內ノ地ニ檢査執行地ナキ場合ニ於テ檢査ヲ受クル爲船舶ヲ檢査執行地マテ回航セシムルトキ

六　船舶檢査證書ノ有效期間滿了シタル場合ニ於テ檢査ヲ受クル爲船舶ヲ航路定限內ノ檢査執行地マテ回航セシムルトキ

七　航路定限外ノ地ニ在ル船舶ヲ航路定限內マテ回航セシムルトキ

八　航路定限變更ノ爲航路定限外ニ回航セシムルトキ

第二十一條　前條ニ依リ認可ヲ受ケムトスル者ハ事由ヲ具シ海務局ニ申請スヘシ

前條各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セムトスルトキハ其ノ旨ヲ申請書ニ附記スヘシ

海務局ハ其ノ申請ヲ適當ト認メタルトキハ第四號書式ノ回航認可證書ヲ交付スヘシ

回航認可證書ノ期間ハ回航ヲ要スル期間ヲ標準トシテ海務局之ヲ定ム

船舶カ目的地ニ到著シタルトキハ回航認可證書ハ有效期間滿了前ト雖其ノ效力ヲ失フ

第二十二條　船舶ニシテ臨時多數ノ兵員、移住民、漁夫又ハ出稼人ヲ運送セムトスルトキハ其ノ所有者、管理人、借入人又ハ船長ハ別種旅客定員證書ノ交付ヲ海務局ニ申請スヘシ

海務局ハ船舶ヲ檢査シ附錄第二號表ノ割合ニ依リ旅客定員ヲ定メ第五號書式ノ別種旅客定員證書ヲ申請人ニ交付スヘシ

別種旅客定員證書ノ有效期間ハ船舶ノ現狀ニ應シ海務局之ヲ定ム

第二十三條　船長ハ船舶檢査證書、假證書、回航認可證書又ハ別種旅客定員證書ヲ船內最モ見易キ所ニ揭ケ且常ニ船員室、旅客室ノ區別ヲ設ケ旅客室ノ等級及旅客定員ヲ客室每ニ揭示スヘシ

旅客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ其ノ積量ニ對スル旅客員數ヲ減スヘシ

第二十四條　船舶ハ旅客ヲ搭載スル場合ニ於テ十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ二年以上五年未滿ノ者ハ四人ヲ以テ旅客定員ノ一人ニ積算シ二年未滿ノ者ハ之ヲ算入セス

船舶ノ所有者、管理人、借入人、郵便吏員及航海中救助セラレタル者ハ旅客ト看做サス

第二十五條　船舶ノ航行期間內ニ於テ旅客定員ヲ變更セムトスルトキハ船長ハ事由ヲ具シ海務局ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第二十六條　檢査官吏ニ於テ安全艙ヲ封鎖シタルトキハ其ノ鍵ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

船長ハ安全艙ノ鍵ヲ封緘ノ儘船內ニ保管スヘシ

船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外安全艙ノ鍵ノ封緘ヲ開クコトヲ得ス

安全艙ノ鍵又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ船長ニ於テ安全艙ノ鍵ヲ開封シタルトキハ海務局ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全艙ノ封鎖ヲ申請スヘシ

第二十七條　船舶カ航行期間內ニ於テ航路ヲ變更セムトスルトキハ船長ハ其ノ事由ヲ具シ海務局ニ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

第二十八條　船舶ヲ入渠若ハ上架セムトスルトキ、船體機關ノ要部若ハ重要ナル屬具ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ修理變更セムトスルトキ竝汽機汽鑵ヲ取放シ若ハ螺旋軸ヲ拔出シタルトキハ所有者、管理人、借入人又ハ船長ヨリ其ノ旨ヲ海務局ニ屆出ツヘシ

第二十九條　定期檢査若ハ臨時檢査ニ於テ左ノ場合ニ該當スル船舶ハ之ヲ入渠又ハ上架セシメ船底若ハ螺旋軸ヲ檢査スヘシ但シ檢査官吏ノ適當ト認ムル證明書ヲ有スル船舶又ハ港灣內ノミヲ航行スル船舶ニ限リ其ノ檢査ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　製造後十八年未滿ノ鐵鋼船ニシテ前回ノ船底檢査以後二年ニ達シタルトキ

二　鐵製旅客汽船及製造後十八年以上ノ鐵鋼船ニシテ前回ノ船底檢査以後一年六箇月ニ達シタルトキ

三　徑四吋以上ノ螺旋軸ヲ有スル船舶ニシテ前回其ノ軸ヲ拔取リテ檢査シタル後三年ニ達シタルトキ

四　徑四吋未滿ノ螺旋軸ヲ有スル船舶ニシテ前回其ノ軸ヲ拔取リテ檢査シタル後二年ニ達シタルトキ

第三十條　第一條各號ニ揭ケル船舶カ內地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ニ於テ檢査ヲ受ケ檢査證書ヲ受有シ初メテ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ檢査證書ニ記載スル航路定限、航行期間、旅客定員及航行セムトスル航路ヲ記載シタル書面ニ檢査證書寫ヲ添ヘ海務局ニ屆出ツヘシ但シ航路ヲ變更シ又ハ廢止シタルトキ亦同シ

第三十一條　船舶ノ所有者、管理人、借入人又ハ船長ハ船舶ノ航行期間又ハ假證書ノ有效期間滿了シタルトキ又ハ本令ニ依リ檢査ヲ受クルコトヲ要セサルモノトナリタルトキハ船舶檢査證書又ハ假證書ヲ還納シ海務局ニ返還スヘシ回航認可證書、別種旅客定員證書ノ有效期間滿了ノトキ又ハ效力ヲ失ヒタルトキ亦同シ

第三十二條　船舶檢査證書、別種旅客定員證書、回航認可證書又ハ假證書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ船長ハ還滯ナク其ノ事由ヲ具シ海務局ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

回航ノ認可ヲ受ケタル船舶ニシテ其ノ發航前回航認可證書ノ有效期間滿了シタルトキ又ハ回航中有效期間滿了スヘキトキハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十三條　船舶檢査證書、別種旅客定員證書又ハ假證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ還滯ナク關係書類ヲ添ヘ海務局ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ但シ其ノ變更カ船長ノ交代ニ係ルトキハ部分書換ヲ申請スルコトヲ得

前項但書ノ申請ヲ受ケタルトキハ直ニ船舶檢査證書又ハ假證書ニ記載ノ船長氏名ヲ朱線ニテ塗抹シ其ノ上面ニ新船長ノ氏名及海技免狀ノ種類及變更ノ年月日ヲ記入シタルモノヲ貼附スヘシ

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ舊船舶檢査證書、舊假證書又ハ舊別種旅客定員證書ヲ還滯ナク海務局ニ返還スヘシ

一　假船舶檢査證書ヲ受ケタル船舶ニシテ船舶檢査證書ノ交付ヲ受ケタルトキ

二　船舶檢査證書、假證書又ハ別種旅客定員證書ノ書換ヲ受ケタルトキ

三　船舶檢査證書、假證書又ハ別種旅客定員證書ノ僞損ニ依リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

第三十五條　本令ニ於テ特ニ定メタル場合ヲ除クノ外船舶檢査證書若ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶檢査證書若ハ假證書ニ記載セル航路定限、航行期間若ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シ又ハ檢査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ航行停止ノ命ニ違反シ又ハ屬具ノ整備ヲ爲サシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐僞ノ所爲ヲ以テ船舶檢査證書、假證書、回航認可證書又ハ別種旅客定員證書ヲ受ケタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三十六條　船舶檢査證書若ハ假證書ニ旅客定員ノ記載ナキ船舶ニ旅客ヲ搭載シ又ハ旅客定員ヲ記載シタル證書ノ旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シ竝旅客室ニ貨物ヲ搭載シタル場合ニ於テ其ノ積量ニ對シ旅客定員ヲ減セス旅客ヲ搭載シタルトキハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　左ノ場合ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　本令ノ規定ニ反シ船舶檢査證書、假證書ノ書換ヲ申請セサルトキ又ハ船舶檢査證書、假證書、適航證書、回航認可證書若ハ船舶檢査手帖ノ再交付ヲ申請セス又ハ之ヲ返還セサルトキ

二　回航認可證書ニ明許ヲ受ケスシテ旅客若ハ貨物ヲ搭載シタルトキ

三　本令ノ規定ニ反シ船舶檢査證書、假證書、適航證書、回航認可證書、旅客室ノ等級及旅客定員、臨時旅客定員證書又ハ別種旅客定員證書ヲ表示セサルトキ

四　本令ノ規定ニ反シ船舶檢査手帖ヲ船內ニ保管セサルトキ又ハ船舶檢査手帖ノ封筒ノ封緘ヲ開キタルトキ若ハ船舶檢査手帖ノ封筒ノ封緘ヲ申請セサルトキ

五　本令ノ規定ニ反シ旅客室ト船員室トヲ區別シ置カサルトキ

六　本令ノ規定ニ反シ臨時旅客定員證書又ハ別種旅客定員證書ヲ返還セサルトキ

七　本令ノ規定ニ反シ安全艙ノ鍵ヲ船內ニ保管セサルトキ又ハ安全艙ノ鍵ノ封緘ヲ開キタルトキ

八　安全艙ノ鍵又ハ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ安全艙ノ鍵ノ封緘ヲ開キタル場合ニ於テ封鎖ノ申請ヲ爲ササルトキ

九　第二十八條及第三十條ノ規定ニ反シ屆出ヲ爲ササルトキ

十　檢査官吏ノ要求ニ對シ檢査上必要ナル書類ヲ檢閱ニ供セス又ハ必要ナル幫助ヲ爲サス若ハ其ノ訊問ニ應セサルトキ

第三十八條　本令ノ罰則中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

許可 8427 本文

第三十九條　本令ノ罰則ハ船舶所有者、管理人又ハ借入人カ未成年者若ハ禁治産者ナルトキハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用シ商事會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ其ノ所爲ヲ爲シタル代表者ニ之ヲ適用ス

第四十條　本令ハ總噸數二十噸若ハ積石數二百石未滿ノ帆船又ハ航行ノ用ニ供セサル船舶竝端舟其ノ他機關ヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ機關ヲ以テ運轉スル舟ニ之ヲ適用セス

第四十一條　本令ハ當分ノ內支那形帆船ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現在スル帆船ハ本令施行ノ日ヨリ六箇月以內ニ本令ニ依ル檢査ヲ受クヘシ

明治四十年府令第七十三號關東州汽船檢査規則竝明治四十一年府令第十一號別種旅客定員ニ關スル檢査規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ受有スル汽船檢査證書、假證書、回航認可證書、別種旅客定員證書ハ其ノ有效期間中本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス

第一號書式

帆船何丸第何回定期檢査申請書

一　所有者ノ住所氏名又ハ名稱　何國何郡何村何字何番地　何之誰

二　積量　總噸數　何噸何　登錄噸數　何噸何

三　船籍港　何港

四　船長海技免狀種類、番號及氏名　第何號　何之誰

五　代理店　何船長又ハ何之誰

六　航行セムトスル航路　何灣ヨリ何港ヲ經テ何灣ニ至ル間

七　申請ノ事由　期間滿了、航海又ハ修繕ノ都合ニヨリ繰上等

八　前回檢査官署　何何管海官廳

九　前回航行期間　自明治何年何月何日　至明治何年何月何日

十　前回船底檢査年月日　明治何年何月何日

十一　前回艤裝檢査年月日　明治何年何月何日

右船舶目下何何港ニ（碇船入渠上架、搥船ノ別）中ニ有之檢査雜備製居候間來ル何月何日御臨檢相成度此段申請候也

明治　年　月　日

右船舶所有者又ハ船長　何之誰

宿所

關東都督府海務局御中

（備考）檢査執行地外ニ於テ檢査ヲ受クル場合ニ在リテハ其ノ事由及檢査官吏出張ニ要スル旅費ヲ納付スヘキ旨附記スヘシ

第二號書式（竪九寸橫一尺三寸）

第　號

船舶檢査證書

本籍	信號	航路限定	旅客定員			檢査有效期間	所有者	船舶名	船種	船籍港
船番號	符字		一等室	二等室	三等室					
									汽機	
									種	
									艙	
									汽罐	
									種	
									艙	
									汽罐	
									制限	
									噸數	
									船長	

（備考）第三十二條及第三十三條ニ依リ船舶檢査證書ヲ交付スル場合ニ在リテハ證書書換又ハ再交付ト朱記スヘシ

明治　年　月　日

關東都督府海務局　印

第三號書式（竪九寸橫一尺三寸）

第　號

假船舶檢查證書

本籍	信號	航路限定	旅客定員			檢査有效期間	所有者	船舶名	船種	船籍港
船番號	符字		一等室	二等室	三等室					
									汽機	
									種	
									艙	
									汽罐	
									種	
									艙	
									汽罐	
									制限	
									噸數	
									船長	

右檢査ヲ遂ケ關東州船舶檢査規則第六條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

明治　年　月　日

檢査官吏　官氏名印

（檢査官吏二名以上ナルトキハ連署スルモノトス）

（備考）第三十二條第三十三條ニ依リ假證書ヲ交付スル場合ニ在リテハ證書書換又ハ再交付ト朱記スヘシ

第四號書式（竪九寸三分橫六寸六分）

第　號

制印

回航認可證書

船舶所有者住所（所在地）

氏名（名稱）

右所有ノ（製）船　丸ハ關東州船舶檢査規則第二十一條第三項ニ依リ（旅客貨物ノ搭載ヲ許シタルトキハ其ノ旨ヲ記入ス）ヨリ　迄航行スルコトヲ認可シ此ノ證書ヲ交付ス

但シ此ノ證書ハ明治　年　月　日限リ無效トス

明治　年　月　日

關東都督府海務局　印

（備考）第三十二條第二項ニ依リ回航認可證書ヲ交付スル場合ニ在リテハ再交付ト朱記スヘシ

第五號書式（竪九寸橫一尺三寸）

第　號

制印

別種旅客定員證書

船種	船名	所有者	航路	證書有效期間	旅客定員	總員
					內譯	
					船長	

右檢査ヲ遂ケ關東州船舶檢査規則第二十二條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

明治　年　月　日

關東都督府海務局　印

（備考）旅客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ其ノ積量ニ關スル旅客員數ヲ減スヘシ

別種旅客定員算出表

航行線	上層旅客甲板上ノ場所	下層旅客甲板
定時間	面積	容積	面積	容積
二十四時間未滿	四平方呎	二十立方呎	六平方呎	三十立方呎
二十四時間以上	六平方呎	三十立方呎	八平方呎	四十立方呎

（備考）本表ハ旅客定員一人ニ充ツヘキ船室ノ面積竝積ノ最小限度トス

附錄第一號表

旅客定員算出表

航路	客室ノ等級	上層旅客甲板上ノ場所 面積	容積	下層旅客甲板 面積	容積
遠洋航路	一等室	一等及二等室ハ臥臺ノ數ニ依ル		一等及二等室ハ臥臺ノ數ニ依ル	
	二等室	但シ面積ハ十二平方呎容積ハ七十二立方呎ヲ下ラス		但シ面積ハ十二平方呎容積ハ七十二立方呎ヲ下ラス	
	三等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎	九十立方呎
近海航路	一等室	一等室ハ臥臺ノ數ニ依ル但シ面積ハ十二平方呎容積ハ七十二立方呎ヲ下ラス		一等室ハ臥臺ノ數ニ依ル但シ面積ハ十二平方呎容積ハ七十二立方呎ヲ下ラス	
	二等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎	九十立方呎
	三等室	九平方呎	五十五立方呎	十二平方呎	七十二立方呎
沿海航路	一等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎（但シ臥臺ヲ備フルトキハ面積ハ十二平方呎容積ハ七十二立方呎トス）	九十立方呎
	二等室	九平方呎	五十五立方呎	十二平方呎	七十二立方呎
	三等室	六平方呎	四十立方呎	九平方呎	五十五立方呎
平水航路	一等室	九平方呎		十二平方呎	
	二等室	六平方呎		九平方呎	
	三等室	四平方呎		六平方呎	

（備考）

一　本表ハ旅客定員一人ニ充ツヘキ船室ノ面積竝積ノ最小限度ヲ示ス

二　平水航路ニ使用スル船舶ノ旅客定員ハ航路ノ情況ニ依リ上層旅客甲板以上ノ場所ニ在リテハ二五平方呎下層旅客甲板ニ於テハ四平方呎マテ減スルコトヲ得

附錄第二號表

別種旅客定員算出表

航行線	上層旅客甲板以上ノ場所 面積	容積	下層旅客甲板 面積	容積
定時間				
二十四時間未滿	四平方呎	二十立方呎	六平方呎	三十立方呎
二十四時間以上	六平方呎	三十立方呎	八平方呎	四十立方呎

（備考）本表ハ旅客定員一人ニ充ツヘキ船室ノ面積竝積ノ最小限度トス

關東都督府令第十六號

船舶檢查手數料規則左ノ通定ム

明治四十四年七月十五日　關東都督　子爵大島義昌

船舶檢查手數料規則

第一條　船舶檢查證書、滿船檢查證書、回航認可證書、臨時旅客定員證

許可 8427

○告示

司法省告示第五十號

簿記ノ滅失ニ因リ登記ヲ不動産登記法第二十四條ニ依リ共登記ノ轉寫ヲ命シタル左記ノ土地登記簿ハ滅失ノ虞アルニ付明治四十四年七月二十五日ヨリ之ヲ閉鎖ス

司法大臣　子爵岡部長職

登記簿ノ種類	登記簿ノ番號
二回村部假登記簿	第二十四冊
二回同部大字大倉土地登記簿	第三十九冊
二回同部同村大字大倉土地登記簿	第四十五冊
二回同部同村大字下大倉土地登記簿	第二十七冊
二回同部同村大字大倉土地登記簿	第十二冊

農商務省告示第四百六十一號

森林法ニ依リ左記ノ保安林ヲ解除ス

明治四十四年七月二十五日　農商務大臣　男爵大浦兼武

所在	地番	地目	面積	解除ノ事由
滋賀縣甲賀郡油日村大字櫻谷	字鍋倉山一番ノ一	山林	一町一反一畝一歩	開墾ノ爲

農商務省告示第四百六十二號

森林法ニ依リ左記ノ保安林ヲ解除ス

明治四十四年七月二十五日　農商務大臣　男爵大浦兼武

所在	地番	地目	面積	解除ノ事由
滋賀縣甲賀郡油日村大字櫻谷	字鍋倉山一番ノ二	山林	一町一反一畝一歩	開墾ノ爲

第 8427 号　本文

農商務大臣　男爵　大浦兼武

森林法ニ依リ左記ノ森林ヲ解除ス

明治四十四年七月二十五日

農商務省告示第四百六十三號

| | | |

遞信省告示第七百四十七號

本日ヨリ左記二等電信局ヲ設置シ無線電報ニ限リ之ヲ取扱フ

明治四十四年七月二十五日　遞信大臣　男爵　後藤新平

名稱	位置
大阪商船株式會社所屬汽船あかご丸	宿毛港
同	武藏國橫濱

遞信省告示第七百四十八號

郵便局所ニ於テ外國爲替金ノ換算ニ適用スヘキ外國貨幣換算割合左ノ如シ

明治四十四年七月二十五日　遞信大臣　男爵　後藤新平

貨幣名	一圓ニ付
香港洋銀	一ダラー（一ダラー＝一圓八九・三〇八）
其ノ他ノ貨幣換算割合ハ從前ノ通	一圓ニ付一ダラー十二・七セント（一ダラー＝一圓ニ付一ダラー一〇九七）

朝鮮總督府告示第二百二十八號

明治四十四年七月十三日左記學校組合ノ設立ヲ認可ス

明治四十四年七月十四日　朝鮮總督　伯爵　寺內正毅

名稱	位置
全義學校組合	忠清南道全義郡郡內面及其ノ附近一里以內ノ地

朝鮮總督府告示第二百二十九號

元山港長德島ノ南東方ニ燈臺ノ元山第一號浮標ハ風波ノ爲東方ヘ移動ノ處（明治四十四年五月朝鮮總督府告示第百三十二號參照）本月七日復舊ス

明治四十四年七月十四日　朝鮮總督　伯爵　寺內正毅

朝鮮總督府告示第二百三十號

明治四十四年七月十四日咸鏡北道會寧郡公立會寧普通學校ニ公立會寧實業補習學校ノ附設ヲ認可ス

明治四十四年七月十五日　朝鮮總督　伯爵　寺內正毅

朝鮮總督府告示第二百三十一號

明治四十四年七月一日左記公立普通學校ノ設置ヲ認可ス

明治四十四年七月十五日　朝鮮總督　伯爵　寺內正毅

學校名	位置
公立慶州普通學校	慶尙北道慶州郡內面
同道長湍普通學校	同道長湍郡津縣內面
公立陜川普通學校	同道陜川郡內面

朝鮮總督府告示第二百三十二號

明治四十四年七月十四日左記學校組合ノ設立ヲ認可ス

明治四十四年七月十五日　朝鮮總督　伯爵　寺內正毅

名稱	地區
咸歐學校組合	忠清南道稷山郡三四面一圓及其ノ附近一里以內ノ地

朝鮮總督府告示第二百三十三號

本年六月二十八日全羅北道龍潭郡廳舍火ノ際同郡廳備付ニ係ル土地家屋證明簿全部燒失シタルニ依リ同日以前ニ於テ同郡守ノ證明ヲ受ケタル契約書所持者（所有者又ハ典當權者）ハ本年十一月三十日迄ニ其ノ所持スル契約書ヲ該郡守ニ提出シテ再次證明ヲ受クヘシ

右期限內ニ再次證明ヲ受ケサルトキハ爰ニ受ケタル證明ハ其ノ效力ヲ失フ但シ期限後ト雖其ノ權利ト牴觸スヘキ證明ノ申請アキ間ハ再次證明ヲ受ケテ其ノ權利ヲ保存スルコトヲ得

明治四十四年七月十九日　朝鮮總督　伯爵　寺內正毅

朝鮮總督府告示第二百三十四號

明治四十四年七月十八日左記公立普通學校ノ設置ヲ認可ス

明治四十四年七月十五日　朝鮮總督　伯爵　寺內正毅

學校名	位置
公立始興普通學校	京畿道陽智郡邑內面
公立抱川普通學校	同道抱川郡內面

○敍任及辭令

○明治四十四年七月二十二日

陞敍高等官三等

敍從五位　大藏省臨時建築部技師正六位　太田　毅

○明治四十四年七月二十三日

敍從四位　正五位勳三等　梶浦　重藏

○明治四十四年七月二十四日

任製鐵所次長　內務事務官兼內務省參事官從五位勳五等　安河內麻吉

敍高等官二等

任製鐵所理事　敍高等官四等　正六位勳五等　吉川　雄輔

任製鐵所參事　敍高等官五等　從六位勳六等　小川藏次郎

任製鐵所參事　敍高等官六等　正七位　田島勝太郎

任製鐵所副參事　敍高等官六等　正七位勳六等　小林　運重

任製鐵所副參事　敍高等官七等　從七位　成瀨澄三郎

兼任製鐵所副參事　農商務屬兼種畜牧場書記正七位勳八等　宮部　春和

敍高等官七等

任製鐵所副參事　正七位　坂元猷比古

敍高等官六等

北海道及樺太ヘ出張ヲ命ス　拓殖局書記官　國田　寬

依願免本官（以上七月二日內閣）　林務技師子爵　西大路吉光

特旨ヲ以テ位一級被進（七月二日宮內省）　大藏省臨時建築部技師正六位　太田　毅

特旨ヲ以テ位一級被進（七月二日）同）　遞信技師正五位勳三等　梶浦　重藏

四級俸下賜（七月二日大藏省）　大藏省臨時建築部技師　太田　毅

株式會社福岡縣農工銀行監理官ヲ命ス（七月二日）同）　福岡縣事務官　佐柳　藤太

兼補長野區裁判所檢事　長野地方裁判所檢事　長野區裁判所檢事　和田　貞平

上田區裁判所檢事　森原　嘉逸

補長野區裁判所檢事兼（以上七月二日司法省）

本俸七級俸下賜　東北帝國大學農科大學教授　小倉錦太郎

本俸四級俸下賜　東北帝國大學理科大學助教授　窪田　忠彥

（各通）　第八高等學校教授　增田甚治郎

十級俸下賜　第八高等學校教授　大賀　一郎

獸醫學第二講座擔任ヲ命ス（以上七月二十二日文部省）　東北帝國大學農科大學教授　小倉錦太郎

奈良市ヘ出張ヲ命ス（七月二日）同）　文部省視學官　小泉　又一

八級俸下賜（七月二日）　製鐵所技師　西牟田豐民

札幌遞信管理局區內ヘ出張ヲ免ス　遞信技師　梶浦　重藏

札幌遞信管理局區內ヘ出張ヲ免ス　遞信技師　石川留三郎

札幌遞信管理局區內ヘ出張ヲ命ス（以上七月二日遞信省）

年俸五百圓加賜（七月三日同）　遞信技師　梶浦　重藏

年俸二千百六十圓ヲ給ス（六月三十日朝鮮總督府）　官立漢城高等學校學監　高橋　亨

十一級俸下賜（七月同）　永興區裁判所判事　李　根國

滯京ヲ命ス（七月十同）　朝鮮總督府鐵道局長官　大屋　權平

補清州區裁判所判事　慶寧區裁判所判事　鄭　浚謨

（各通）　朝鮮總督府書記官　弓削幸太郎

普通學校教員檢定委員會常任委員ヲ命ス（以上七月十同）　朝鮮總督府視學官　石田新太郎

三級俸下賜　朝鮮總督府道事務官　有賀　光豐

京畿道內務部長ヲ命ス（七月十同）　朝鮮總督府警務總監部　三浦　恵一

朝鮮總督附武官陸軍騎兵大佐　中山民三郎

全羅北道全羅南道及忠淸南道各管內ヘ出張ヲ命ス　朝鮮總督府警務總監部庶務課勤務　深尾　道恕

警務總監部庶務課勤務ヲ命ス（以上七月十同）　朝鮮總督府書記官　錦衛　海鹽

度支部司稅局關稅課長ヲ命ス（八月十同）　千葉縣立千葉中學校長　落合初太郎

（各通）　千葉縣立木更津中學校長

七級俸下賜　千葉縣立佐原中學校長　竹內喜之助

九級俸下賜（以上七月二千葉縣）　長野縣農業技師　井上龜五郎

年俸六百圓下賜（七月十長野縣）　青森縣農業技師　菅沼只三郎

年俸千三百圓下賜　青森縣農業技師　川原　信次

年俸千圓下賜（以上七月青森縣）　島根縣立松江高等女學校長　黑井小源太

九級俸下賜（七月十島根縣）　宮崎縣農業技師　本部　定敏

年俸七百圓下賜（七月宮崎縣）　沖繩縣立第一中學校長　山口澤之助

七級俸下賜（七月二沖繩縣）

正誤

本月十一日本欄二五九頁下段加藤柳之輔ハ加藤柳之助ノ誤

○宮廷錄事

皇族御發著　守正王殿下ハ一昨二十三日名古屋ヨリ御上京相成リ、載仁親王殿下ハ御職務ヲ以テ昨二十四日御出發千葉縣下ヘ御出張相成リ、博義王殿下ハ本月二十二日御出發栃木縣下鹽原ヘ、恆久王妃昌子內親王殿下竝ニ恆德王殿下ハ昨二十四日御出發同縣下日光ヘ、守正王同妃伊都子兩殿下竝ニ方子女王、規子女王兩殿下ハ同日御出發群馬縣下伊香保ヘ各御旅行相成リタリ

許可 8427 号

○彙報

○官廳事項

○專賣局分課規程中改正　大藏省ニ於テ今二十五日專賣局分課規程中左ノ通改正ス

第一條中「及監督課」ヲ「監督課及調査課」ニ改ム

第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條ノ二　調査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　專賣ニ關聯スル諸般ノ調査ニ關スルコト

二　統計報告ニ關スルコト

第十一條及第十三條中「調査課」ヲ「管理課」ニ改ム

第十六條第六號中「統計報告及」ヲ削ル

同條第七號中「法規及沿革史」ヲ「及法規ノ」ニ改ム

○官吏褒賞　陸ニ栃木縣下日光御用邸ヘ出張ノ五十嵐内匠寮御用掛ハ本月二十一日歸京、陸軍野戰砲兵射擊學校ニ於ケル野戰砲兵射擊學校教官大尉從二位勳三等功四級大澤界雄、同校教官大尉正六位勳五等功四級青木宣純、同校教官大尉正六位勳五等功四級井口省吾、同校教官大尉正六位勳五等功四級山田隆一、同校教官大尉正六位勳五等功四級小川恒藏、同校教官大尉正六位勳五等功四級大井成元、同校教官大尉正六位勳五等功四級大庭二郎、同校教官大尉正六位勳五等功四級小川又次、同校教官大尉正六位勳五等功四級山下泰平、同校教官大尉正六位勳五等功四級松村正三、同校教官大尉正六位勳五等功四級新井勇、同校教官大尉正六位勳五等功四級進昌、同校教官大尉正六位勳五等功四級菅見省吾、同校教官大尉正六位勳五等功四級三浦宮重、同校教官大尉正六位勳五等功四級荒木貞夫、同校教官大尉正六位勳五等功四級清水賢次郎、同校教官大尉正六位勳五等功四級鐵太郎、同校教官大尉正六位勳五等功四級森一馬、同校教官大尉正六位勳五等功四級杉若金一郎、同校教官大尉正六位勳五等功四級屋彪三郎、同校教官大尉正六位勳五等功四級倉澤清一、同校教官大尉正六位勳五等功四級松村孝、同校教官大尉正六位勳五等功四級荒木貞夫

	伊東	船越	酒井	忠亮	勘解由小路資承
青山	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
幸宜	伊東	船越	酒井	忠亮	勘解由小路資承
子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
三島	鍋島	直彬	有馬	頼之	高倉
彌太郎	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
岡部	松平	乗承	森	京極	高備
長職	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
子爵	東坊城	徳長	清	吉田	清風
松平	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
康民	青木	信光	野宮	清	高厚
子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
松平	伏原	宣足	定穀	・平松	時厚
親信	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
井上	舟橋	遂賢	大久保	忠順	本多
匡四郎	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
久竝	加納	大田原	久留島	通簡	實方
子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
榎本	武監	元忠	通明	一清	爲寛
武揚	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
子爵	前田	毛利	木多	忠敬	藤谷
前田	利定	元忠	黒田	忠敬	爲泰
利定	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
子爵	直	毀岡	鍋島	和志	松平
永野	西大路	圭賓	直虎	令城	乗長
修我	吉光	子爵	子爵	子爵	子爵
子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
結準	高徳	子爵	稲垣	藤井	定政
子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
堤	京極	永井	太祥	行徳	城
功長	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
子爵	尚敏	尚敏	患緑	土御門	晴榮
鳥居	永井	堀河	五辻	晴雅	御門
忠文	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
子爵	護隆	護隆	真松	治仲	治仲
弘達	直安	子爵	瓦光	野村	辻
子爵	子爵	一柳	子爵	子爵	子爵
入江	井伊	末徳	末徳	松平	益三
爲守	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
子爵	新庄	樋口	誠康	直恭	直徳
牧野	直陳	子爵	子爵	子爵	子爵
忠爲	子爵	子爵	子爵	池田	政時
子爵	松平	伊集院	波知	政恭	政時
子爵	直平	子爵	子爵	子爵	子爵
仙石	以孝	丹羽	長徳	冷泉	爲久
政固	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
子爵	大宮	牧野	貞幹	爲勇	爲理
唐橋	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵
在正	本荘	貞幹	貞幹	爲理	爲理
	宗義	子爵	子爵	子爵	子爵

正誤

本月十三日本國卒業證書等授與ノ項中東京帝國大學法科大學法律學科（獨逸法派修）ノ部小笠原三九郎ノ上愛媛ハ愛知羽吹龍ノ上鹿兒島ハ山形田崎繁市ノ上士族ハ平民吉野勝六ノ上神奈川縣士族ハ長野縣平民同政治學科渡邊聰ノ上長崎ハ佐賀田村謙藏ノ上士族ハ平民同特待生選定ノ項中理科大學纏綴理一郎ノ動物學科ハ植物學科梶山英二ノ植物學科ハ動物學科同十八日同入學許可ノ項中四二七頁三段高田徳ハ高山德ノ誤正

文部省參事官

○帝國議會

○貴族院

○子爵議員當選　左記七十八貴族院子爵議員選擧ニ當選セシ旨昨二十四日選擧管理者ヨリ報告ヲ領セリ

高知	一	一	一	一	一
縣	八	四	五	九	四
栃木	一	一	一	一	三
縣	五	一	四	八	九
三重	一	一	一	一	三
縣	一	一	一	一	五
奈良	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
愛知	一	一	一	一	四
縣	三	一	一	一	九
靜岡	一	一	一	一	一
縣	一二	一	一	一	一
山梨	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
滋賀	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
岐阜	二	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
長野	一	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
富山	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
鳥取	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
島根	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
岡山	一	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
廣島	二	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
山口	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
和歌山	一	一	一	一	一
縣	五	一	一	一	一
德島	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
香川	三七	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
愛媛	七	二	二	一	一
縣	二	一	一	一	一

福岡	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
佐賀	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
大分	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
宮崎	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
熊本	一	一	一	一	一
縣	五	一	一	一	一
鹿兒島	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
沖縄	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
合計	一七八	二二	二七六	二九八	四八、七二六
前年比較	二五五	三一	一〇三六	一六九	四四〇

奈良	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
三重	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
愛知	一	一	一	一	一
縣	三	一	一	一	一
靜岡	一二	一	一	一	一
縣	一二	一	一	一	一
山梨	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
滋賀	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
岐阜	二	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
長野	一	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
富山	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
鳥取	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
島根	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
岡山	一	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
廣島	二	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
山口	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
和歌山	一	一	一	一	一
縣	五	一	一	一	一
德島	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
香川	三七	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
愛媛	七	二	二	一	一
縣	二	一	一	一	一

福岡	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
佐賀	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
大分	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
宮崎	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
熊本	一	一	一	一	一
縣	五	一	一	一	一
鹿兒島	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
沖縄	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
合計	一七八	二二	二七六	二九八	四八、七二六
前年比較	二五五	三一	一〇三六	一六九	四四〇

栃木	一	一	一	一	九
縣	五	一	一	四	三九
三重	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
奈良	一	一	一	一	一八
縣	一	一	一	一	一
愛知	一	一	一	一	一
縣	四二	一	一	一	一
靜岡	一二	一	一	一	一
縣	一二	一	一	一	一
山梨	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
滋賀	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
岐阜	二	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
長野	一	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
富山	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
鳥取	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
島根	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
岡山	一	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
廣島	二	一	一	一	一
縣	六	一	一	一	一
山口	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
和歌山	一	一	一	一	一
縣	五	一	一	一	一
德島	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
香川	三七	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
愛媛	七	二	二	一	一
縣	二	一	一	一	一

福岡	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
佐賀	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
大分	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
宮崎	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
熊本	一	一	一	一	一
縣	五	一	一	一	一
鹿兒島	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
沖縄	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一
合計	一七八	二二	二七六	二九八	四八、七二六
前年比較	二五五	三一	一〇三六	一六九	四四〇

○雜事

○外國渡來旅客數　大藏省ノ調査ニ係ル去月中本邦渡來外國旅客國籍別比較左ノ如シ（大藏省）

國籍	四十四年六月人	四十三年六月人	比較（增）
英國	二、〇五一	二、〇六〇	九
米國	二、〇五九	二、〇二六	三三
獨逸	五九	六二	三
佛蘭西	四〇	三	三七
露西亞	一二五	一二三	二
清國	三四一	三一八	二三
伊太利	三	四	一
墺地利匈牙	三	五	二
土耳其	一	一	一
遲羅	一	一	一
白耳義	三	六	三
希臘	一	一	一
西班牙	二	一	一
墨西哥	一	一	一
瑞典	四	七	三
智利	一	一	一
瑞西	一	一	一
其他ノ國	一、一〇三	一、一一一	九二
計			
比較（增）			九二

○地方行政

○縣會　佐賀縣ニ於テ本月十七日招集ノ臨時縣會ハ議事結了同十八日閉會セリ（佐賀縣）

○在外公館報告

○厦門ヲ傳染病流行地ト認定　香港政廳ニ於テ厦門ヲ傳染病流行地ト認定シタル件ニ付キ同地駐在總領事代理領事船津辰一郎ヨリ本月十日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ（外務省）

當地政廳ハ厦門（Amoy）ヲ以テ「ペスト」及虎列剌流行地ト認ムル旨七月五日ノ官報ヲ以テ告示セリ

○上海ヨリ犬輸入禁止　香港政廳ニ於テ上海ヨリ犬輸入禁止ノ件ニ付キ同地駐在總領事代理領事船津辰一郎ヨリ本月十日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ（外務省）

當地政廳ハ七月五日以降三箇月間上海ヨリ犬ノ輸入ヲ禁止スル旨去ル五日ノ官報ヲ以テ公布セリ

○遼陽痘瘡週報　遼陽（鐵道附屬地ヲ含ム）ニ於ケル痘瘡患者ニ關スル在同地帝國領事館ヨリノ週報左ノ如シ（外務省）

本月五日本

期間　新患者　全治　死者　全治　現在

自六月二十五日	一	一	七	一	六
至七月一日					
自同二日	一	一	一	七	一
至同					

（備考）　現在患者一八前報ヨリ繰越ニ係ル七ノ、全治一八前週ヨリ持越患者ニシテ七月三日全治セル七ノナリ

本年初疫以來累計　新患者　全治　死者　全治

大豆	同	同	同	同
黒豆	同	同	同	同
青豆	同	同	同	同
小豆	同	同	同	同
小麥	同	同	同	同
粟	同	同	同	同
白米	同	同	同	同
豆粕	一枚	同	同	同
豆油	清十斤	同	同	同

以上期間內ニ於ケル取引高概數左ノ如シ

豆粕現七千五百枚（以上本月五日附報告）

七月一日ヨリ同十日ニ至ル相場左ノ如シ

種類	單位	最高價格	日	過	爐	銀	本邦貨幣（百圓ニ付キ）	最低價格	日	過	爐	銀	本邦貨幣（百圓ニ付キ）
高粱	清一斗	二八	七月五日	一三〇	〇	〇	七四・五	二八	自七月八日至七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
大豆	同	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
青豆	同	一三〇	七月六日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月八日	一三〇	〇	〇	七四・九
黒豆	同	一三〇	七月六日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
小豆	同	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
小麥	同	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
粟	同	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
白米	同	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
豆粕	一枚	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
豆油	清十斤	一三〇	七月六日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月八日	一三〇	〇	〇	七四・九

以上期間內ニ於ケル取引高概數左ノ如シ

豆粕現七千五百枚（以上本月五日附報告）

七月一日ヨリ同十日ニ至ル相場左ノ如シ

種類	單位	最高價格	日	過	爐	銀	本邦貨幣（百圓ニ付キ）	最低價格	日	過	爐	銀	本邦貨幣（百圓ニ付キ）
高粱	清一斗	二八	七月五日	一三〇	〇	〇	七四・五	二八	自七月八日至七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
大豆	同	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
青豆	同	一三〇	七月六日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月八日	一三〇	〇	〇	七四・九
黒豆	同	一三〇	七月六日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
小豆	同	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
小麥	同	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
粟	同	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
白米	同	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
豆粕	一枚	一三〇	七月四日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月九日	一三〇	〇	〇	七四・九
豆油	清十斤	一三〇	七月六日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	七月八日	一三〇	〇	〇	七四・九

以上期間內ニ於ケル取引高概數左ノ如シ

豆粕現二百石　豆油現　五千斤

大豆現七千五百枚

（備考）　表中是衛貨船ノ標準ハ前報ト同一ナリ

○遼國牛疫　遼國ニ於ケル本年四月中ノ牛疫斃ニ付キ營口駐在領事野間政一ヨリ去月二十日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ本月十三日（外務省）

本年四月中當國ニ於ケル牛疫斃ニ關スル公報左ノ如シ

	牛	水牛	計
モントン、クルングテープ（般谷）	一	五八	五八
同クルングカヲ	四一	九七	一三八
同カラーチン	一七	一九二	二〇九
同ナコンチャイシー	三	三	六
同ナコンソワン	一	一	二
同ナコンラーチャシーマー	四二〇	一五八	五八八
同チャンタブリー	三	六一	六四

○遼陽重要農產物相場　遼陽ニ於ケル重要農產物相場自去月二十一日至本月十日ニ付キ本月六日本（外務省）

地駐在副領事鈴木要太郎ヨリ左ノ如ク報告アリ（本月六日附報告）

六月二十一日ヨリ同三十日ニ至ル相場左ノ如シ

種類	單位	最高價格	日	過	爐	銀	本邦貨幣（百圓ニ付キ）	最低價格	日	過	爐	銀	本邦貨幣（百圓ニ付キ）
高粱	清一斗	二八	六月二十九日	一三〇	〇	〇	七四・五	二八	自六月二十一日至六月二十二日	一三〇	〇	〇	七四・九
大豆	同	一三〇	六月二十九日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	六月二十一日	一三〇	〇	〇	七四・九
青豆	同	一三〇	六月二十九日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	六月二十一日	一三〇	〇	〇	七四・九
黒豆	同	一三〇	六月二十九日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	六月二十一日	一三〇	〇	〇	七四・九
小豆	同	一三〇	六月二十九日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	六月二十一日	一三〇	〇	〇	七四・九
小麥	同	一三〇	六月二十九日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	六月二十一日	一三〇	〇	〇	七四・九
粟	同	一三〇	六月二十九日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	六月二十一日	一三〇	〇	〇	七四・九
白米	同	一三〇	六月二十九日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	六月二十一日	一三〇	〇	〇	七四・九
豆粕	一枚	一三〇	六月二十九日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	六月二十一日	一三〇	〇	〇	七四・九
豆油	清十斤	一三〇	六月二十九日	一三〇	〇	〇	七四・五	一三〇	六月二十一日	一三〇	〇	〇	七四・九

以上期間內ニ於ケル取引高概數左ノ如シ

豆粕現一万四千五百枚　豆油現　五千斤

（以上同十一日附報告）

8427 第 本文

○重慶爲替相場及金利　重慶ニ於ケル本年五月中ノ爲替相場及金利ニ付キ在同地領事館事務代理外務書記生河西信ヨリ去月二十九日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ　（外務省）

去月一日ヨリ本月十日マデ

上海向	一箇月揃	三箇月揃	
上旬	九四・四	九三・五	
中旬	九四・九	九三・五	
下旬	九四・九	九三・五	

漢口向	一箇月揃	三箇月揃	
上旬	九四・四	九三・五	
中旬	九四・九	九三・五	
下旬	九四・九	九三・五	

沙市向	一箇月揃		
上旬	九四・四	一、〇〇〇	
中旬	九四・九	一、〇〇〇	
下旬	九四・九	一、〇〇〇	

二　銀舖爲替平均相場表

上旬	九四・七	九三・〇	
中旬	九四・七	九三・一	
下旬	九四・八	九三・〇	

上旬	九四・七	九三・五	
中旬	九四・七	九三・二	
下旬	九四・七	九三・〇	

三　平均金利表

上旬	五・四	六・三	
中旬	五・四	六・三	
下旬	五・四	六・三	

上旬	五・四	六・三	
中旬	五・四	六・三	
下旬	五・四	六・三	

上旬	五・四	六・三	
中旬	五・四	六・三	
下旬	五・四	六・三	

上旬	五・四	六・三	
中旬	五・四	六・三	
下旬	五・四	六・三	

○香港銀行紙幣流通高及正貨準備高　香港ニ於ケル去月中ノ銀行紙幣流通高及正貨準備高ニ付キ同地駐在總領事代理領事船津辰一郎ヨリ本月十日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ　（外務省）

本月五日ヨリ本月十日マデ

銀行名	流通紙幣高	正貨準備高	準備高平均額
	弗	弗	
渣打銀行	四、〇〇〇、〇〇〇	香上銀行合計	九、〇〇〇、〇〇〇
	一九、七七一、一八	一三、〇〇〇、〇〇〇	

○香港石炭市況　香港ニ於ケル去月中ノ石炭市況ニ付キ同地駐在總領事代理領事船津辰一郎ヨリ本月六日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ　（外務省）

六月中ニ於ケル當地石炭市況ハ運賃依然高マリ市況自前手堅ク持合ヘルモ荷物引合安且纏ニテ商談捗ミシカラス統盟二箇炭約二〇、〇〇〇噸手合アリ本月中輸入炭明細左ノ如シ

日附	炭名	噸數		
一門	撫順	一六三	門司	五、二七
二門	「ホンダイ」	一八若	池松	大四〇〇
三門	同	一九同	門司	三、〇〇〇
三門	同	一九門	Puto Laato	五、三〇〇
三門	同	二〇〇	同	二、〇〇〇
三三	池	二一〇	同	三、〇〇〇
五門	同	二五門	「ホンダイ」	一、〇〇〇
九撫順		二六同	平	四、〇〇〇
一〇	「ホンダイ」	二六三	池	一、〇〇〇
一一門	同	二六門		二、〇〇〇
一二若	松	二八門	同	

二九	同	五、二七	
三〇三	池	大四〇〇	
三〇門	同	二、〇〇〇	
三〇同		三、〇〇〇	
三〇	合計	一〇六、九七	
日	本炭別	八、六〇四	
門	同	一、〇〇〇	
三	池	五一、四七	
著	松	二、〇三二	
撫順		八五三五	
「ホンダイ」		五九八三	
Puto Laato		二、四〇〇	
平		三、〇〇〇	
開		四、〇〇〇	
合計		一〇六、九七	

○天氣概況　颱風ハ昨日來西方ニ進路ヲ轉シ大東嶼ノ南方ヲ通過シ今朝沖縄島ノ南方百五十里ノ地點ニ在リ呂宋ト臺灣ノ間ナルヘシ　水道ニ向フモノヽ如シ　又新颱風ハ小笠原列島ノ南西方約百二十里ノ海上ニ在リテ西北西ノ進路ヲ執レリ　而シテ高氣壓ハ依然トシテオホーツク海ヲ領シ西伯利東部ニ

○觀象

（測候所）

七月二十三日

氣壓　溫度　風　雨量　天氣

十ヲ付シタルハ海面更正ヲ施サヽルヲ示ス　ヰヲ付シタル數ハ風力ヲ示ス　紀過ノ最高最低ハ前日ノ觀測ニ依ル

○全國天氣概報

自七月二十四日午後六時　至七月二十五日午後六時

第一區　北東ノ風、曇ヲ交ヘテモ雨模様アリ
第二區　北東ノ風、概ネ晴ナレトモ雨模様ノ所アリ
第三區　第二區ニ同シ
第四區　第二區ニ同シ
第五區　北東ノ風、概ネ曇

○東京地方天氣概報

北東ノ風曇

七月二十三日

氣壓（海面ノ度）　平均七五四・六粍（平年ヨリ五・一度低シ）
氣溫　平均二〇・二度（平年ヨリ二・三度低シ）　最高一九・〇度　最低九四・七粍
濕度　平均一〇〇時
水蒸氣張力　平均
雲量　平均
日照時間

風　平均速度　三・五米　最大速度　五・二米　最多方向　北北西
水　降雨　一・三粍　總量　七・六粍　最大量　〇・二粍　雨量ノ最多キ時間　前日來ノ降雨斷續翌日ニ亙ル　夜電光アリ

○地震　新居濱外二箇所ノ地震報告左ノ如シ

新居濱　七月二十一日　午後十時十二分三十八秒　強（感覺ナシ）　震動時間約三秒
四阪島　同　二十二日　午前七時五十七分十四秒　微（震度弱キ方）　上下動アリ
新居濱　同　午前七時五十六分五十六秒　微（震動時間長シ）
東京　同　午前九時十分三十二秒　微（感覺ナシ）　（以上中央氣象臺）

○土地收用公告

本年五月十七日內閣ニ於テ認定公告相成タル鐵道院ノ起業ニ係ル停車場擴張敷地トシテ收用スヘキ土地ノ細目左ノ如シ

明治四十四年七月二十五日　宮城縣知事　寺田祐之

收用土地細目

宮城縣仙臺市東六番丁宅地九番　同細十番

明治四十四年七月十七日內閣認定公告ニ係ル福岡市起業ニ係ル學校新築敷地ノ爲メ收用スヘキ土地ノ細目左ノ如シ

明治四十四年七月二十五日　福岡縣知事　寺原長輝

土地細目

福岡市雲子町五〇、四五宅地、五三番地

○廣告

○列車運轉時刻改正

本月二十七日ヨリ國西線列車運轉時刻ノ一部ヲ左ノ通改正ス

但シ詳細ノ發着時刻ハ關係停車場ニ掲示ス

本文 8427

本文
第 8427 号

○入札掲示

明治四十四年七月二十五日　神戸税關

大阪砲兵工廠

明治四十四年七月二十五日

明治四十四年七月二十五日　茂原小林區署

明治四十四年七月二十五日　鹿児島大林區署

第8427号　本文

第8427号　本文

第 8427 号　本文

一株式會社支店設立　南號東京錦花株式會社　本店東京市麹町區飯田町一丁目二番地　支店大阪市南區幡通綿問屋町二丁目九百七十三番地ノ一號　目的ノ營業ハ綿絣及捺染絣代用品ノ製造シ又ハ賣用シ一切ノ附屬ノ業務ヲ營ムヲ以テ目的トス　設立ノ時期ハ明治四十四年六月二十日　資本ノ總額金十万圓ヲ一株ノ金額五十圓ニ付拂込ミタル株金額十五圓ヲ以テ之ヲ發ス　取締役ノ氏名住所左ノ如シ　東京市麹町區飯田町一丁目四番地　中川由太郎　監査役ノ氏名住所同所同番地　安武保太郎　同市本橋區新材木町四丁目一番地ノ二十八號　倉橋鐐次郎　大阪市東區淡路町四丁目二十四番地中村榮吉　存立時期ハ設立ノ日ヨリ滿二十箇年

一商號變更　南號新設　南號井柳株式店　營業ノ種類　石炭鑛業竝ニ賣買業　營業所大阪市東區今橋二丁目二十九番地　支店大阪市北區梅田町三丁目二番地　支店大阪市北區梅田町三丁目二番地　支店大阪市北區梅田町三丁目二

第 8427 号　本文

第 8427 号　本文

官報第八千四百二十七號附錄

明治四十四年七月二十五日

○廣告

○商業登記

株式會社麹町銀行登記事項中左ノ如ク變更ス

一監査役左者明治四十四年七月十六日重任ス

村松合資會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一社員村松榮三郎ハ明治四十四年七月十四日共持分ノ内金一千圓ヲ豐川政七ニ讓渡シテ出資額ヲ金三万圓ト變更シ之ヲ讓受ケタル者ハ同日入社ス

合資會社登記簿第四〇冊第一九五一號

一商號　有限

一本店　同

一目的　同

一設立年月日　金一千圓

一代表社員　合資會社

一存立時期　共盛合資會社

社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任　東京市小石川區同心町一番地

金一千五百圓　無限　一般金錢ノ貸付竝ニ一定ノ會員ヲ募集シテ積金ヲ爲サシメ相互資金

同　有限　ノ融通斡旋ヲ圖ルヲ以テ目的トス

金一千圓　明治四十四年七月十五日

同　高岡誠一郎

自明治四十四年七月十五日至同六十四年七月十四日滿二十箇年

一取締役及監査役左者明治四十四年七月十六日重任ス

東京府北豐島郡王子町字上野原一千五十番地　高岡誠一郎

東京市小石川區竹町十七番地　櫻井久治

同市小石川區同心町一番地　鹿野泰三郎

株式會社晩成銀行登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役齋藤孝四郎ハ明治四十四年七月十三日辭任シ左者同日取締役ニ就任ス

茨城縣新治郡柿岡町大字柿岡百七十六番地　櫻井儀一郎

一監査役伊地知榮藏ハ同年六月二十七日退任シ左者同年七月十三日監査役ニ就任ス

東京市淺草區田中町八十番地　玉川由太郎

合資會社登記簿第四〇冊第一九五二號

一商號　柏木兄弟合資會社

一本店　東京市深川區洲崎町五番地

一目的　金錢ノ貸付其ノ利益ヲ得ルヲ以テ目的トス

一設立年月日　明治四十四年七月十五日

一存立時期　自明治四十四年七月十五日至同五十四年七月十四日向フ十箇年

一社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任　東京市深川區洲崎町五番地　柏木　米吉

無限　柏木　きん

有限　柏木傳之助

同所

一設立年月日　金二百五十圓

一存立時期　金一百五十圓

一社員ノ氏名住所出資ノ種類價格及責任　同

金二百五十圓　無限

金一百五十圓　有限

同所

合名會社登記簿第一三冊第六二〇號

一商號　同市同區洲崎辨天町一丁目六番地

一本店　合名會社

一目的　東京市麻布區狸穴町十一番地

各便所及各戸ノ汲所流場ヨリ下水道ニ通ズル各下水ノ淺渫

東京市公私下水道新設工事ノ請負及其改築修繕

公私一般ノ衛生掃除ノ請負

明治四十四年七月十九日

鈴木榮藏松

一設立年月日　自明治四十四年七月十九日至同九十四年七月十八日滿五十箇年

一代表社員ノ氏名　鈴木榮藏松

一存立時期　東京區裁判所ノ船舶登記第一〇八一號第一一一七號第

一社員ノ氏名住所出資ノ種類價格　一〇六七號第一〇五〇號ノ艘

金八百圓　栗村　盛昌

金七百圓　作間　庄次

金七百圓　松尾芳太郎

合資會社林屋商店登記事項中左ノ如ク變更ス

一社員田中清五郎ハ明治四十四年七月十四日其出資額ヲ金三万二千圓ト變更セリ

合資會社横濱石炭商會登記事項中左ノ如ク追加ス

一滿期入ノ氏名住所　神奈川縣橫濱市元濱町四丁目四十二番地　山下龜三郎

株式會社第三銀行登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役及監査役左者ハ明治四十四年七月十六日重任ス

東京市日本橋區小網町四丁目九番地　安田　善助

同所八番地　安田善四郎

同市深川區材木町十五番地　中村　清藏

同市本鄉區本富士町二番地　小川眞太郎

同市下谷區竹町二十番地　長谷川千藏

株式會社第三銀行登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役左者明治四十四年七月十六日重任ス

東京市日本橋區小網町四丁目八番地　安田善四郎

同市本所區橫綱町二丁目六番地　安田　善衛

同市同區濱町三丁目一番地　長井利右衛門

同市日本橋區大傳馬町一丁目十三番地　原田虎太郎

株式會社明治商業銀行登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役及監査役左者明治四十四年七月十六日重任ス

東京市日本橋區小網町四丁目九番地　安田　善助

同市日本鄉區湯島三組町五十九番地　武井　守正

同市同區本富士町二番地　羽野　知顯

同市深川區材木町十五番地　中村　清藏

同市本鄉區本富士町二番地　小木　貞正

長野縣東筑摩郡生坂村二百五十九番地　平林　行雄

東洋汽船株式會社登記

一物上擔保附タルコトノ表示

一社債ノ總額　金四百三十万圓

一各社債ノ金額　金一百圓、五百圓、一千圓ノ三種トス

一社債ノ利率　一箇年六朱

一社債償還ノ方法及期限　社債券發行ノ日ヨリ滿五箇年間據置キ爾後五箇年間ニ委託會社ノ都合ヲ以テ隨時償還スルモノトス

一利息支拂ノ方法及期限　每年四月一日ヨリ九月三十日迄ノ分ハ九月二十八日ニ十月一日ヨリ三月三十一日迄ノ分ハ三月二十八日ニ東洋汽船株式會社又ハ其指定スル場所ニ於テ利札ト引換ニ支拂フモノトス、但元金拂込ノ節ハ其當日ヨリ以後ノ利息ヲ計算ス

一擔保ノ種類　船舶抵當權

一擔保ノ目的物　船舶登記第一〇八一號第一一一七號第一〇六七號第一〇五〇號ノ艘

東京區裁判所ノ船舶登記第一〇八一號第一一一七號第一〇六七號第一〇五〇號ノ艘

東京市淺草區蔵前吉町十一番地　鈴木榮藏松

付録

第 8142 7 号　付録

第 8427 号 付録

○法人登記

○産業組合登記

第 8427 号 付録

第 8427 号　付録